

兵 医 広 報

2024
SUMMER
vol. 266

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

西宮キャンパス

兵庫医科大学(医学部)
兵庫医科大学病院
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6111(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/> (大学)
<https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/> (病院)

神戸キャンパス

兵庫医科大学 (薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
☎078-304-3000(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/>

篠山キャンパス

兵庫医科大学
ささやま医療センター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地
☎079-552-1181(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>
兵庫医科大学
ささやま老人保健施設
兵庫医科大学
ささやま居宅サービスセンター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地
☎079-552-6840(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

梅田キャンパス

兵庫医科大学
梅田健康医学クリニック
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス13F
☎0120-682-701(代)
<https://umeda-kenshin-clinic.jp/>

＜広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ＞

【兵庫医科大学 医学部 卒業生(緑樹会会員)の方】
兵庫医科大学 医学部 同窓会緑樹会
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階
☎0798-45-6448 (平日13:00～17:00)
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 医学部 在学生保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 西宮教学課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 2階
☎0798-45-6159 (平日8:30～16:45)
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・
リハビリテーション学部 卒業生(海泉会会員)の方】
兵庫医科大学 同窓会 海泉会事務局
(キャリアデザインセンター)
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス M棟 1階
☎078-304-3100
✉kaikyoukai@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・
リハビリテーション学部 在学生保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 学生支援課
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス P棟 1階
☎078-304-3007 (平日8:30～17:00)
✉gakuseishien@ml.hyo-med.ac.jp

【その他の方】
学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6655
✉kouhou@hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
兵医広報 vol.266 (2024 SUMMER)
発行日／2024年8月1日
発行元／学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課



良質で安全な医療を届けるために

兵庫医大の チーム医療

Team medical care



感染対策チーム (ICT)

Infection Control Team



(左から) 看護師/石川かおり、医師/中嶋一彦、薬剤師/植田貴史、臨床検査技師/山田久美子

| 活動内容 |

- ① 院内感染アウトブレイク(限定された領域の中で感染症にかかった集団)や重大な耐性菌感染発生時の対応を行う。
- ② 抗菌薬使用に関する教育、指導並びに介入を行う。
- ③ 感染に関する各種サーベイランス(調査・監視)を実施する。
- ④ 感染対策マニュアルの作成、監修および修正を行う。
- ⑤ 感染治療、管理に関する個別のコンサルテーションを行う。
- ⑥ 感染に関する学内研修会を実施する。

| 構成メンバー |



医師 中嶋一彦/寺嶋真理子/竹田健太/橋本昌樹/井出岳/大谷成人/石戸聡/豊島慶雄/藤本幸一

薬剤師 植田貴史/田久保慎吾/喜田匡俊

臨床検査技師 山田久美子/飯島紅祐/湊宏美/稲村昌輝/北村典子/竹原薫風

管理栄養士 堀江翔



看護師 一木薫/石川かおり/谷口優香/水口智咲/雑賀逸平/中村滋子/吉田智子/峯瀬美千代/清水直美

1人の患者に対して、様々な医療専門職者が所属部署を超えて連携し、治療やケアに当たる「チーム医療」が注目されています。兵庫医科大学病院で活動する18のチームから3チームを紹介します。

team
medical care

中嶋 感染対策チーム (ICT) は患者さんやご家族、職員など、病院に関わる全ての人が無用な感染を起こさないよう、日々院内の感染制御に努めています。兵庫医科大学病院には18の医療チームがありますが、多くが各部署に自席があるため必要に応じてコミュニケーションをとっています。ICTの主要メンバーは、同じ部署に在籍して毎日顔を突き合わせて業務にあたっています。

植田 それだけ、密なコミュニケーションが必要と考えています。

石川 感染対策は患者さんに安心して治療を受けてもらうためにかかせません。また院内のスタッフが目の前の治療に専念できる環境づくりやサポートもチーム活動として重要です。

植田 お互いがいまどういうことをしているのか、何が起きているのか、都度情報を共有して速やかに対応することを意識していますよね。大きなずれになる前に、普段から些細なことでも話をしてお互いの見解をすり合わせています。

山田 例えば臨床検査部は院内の縁の下での力持ち。臨床は医師や看護師のフィールドですが、微生物学的な視点からでない気づけないことが多々あります。注意すべき病原体が検出された場合、真っ先に気が付いて先生に知らせるなど、自分の立場から貢献できる部分があると思います。

中嶋 チーム内では自分の専門分野はもちろん、他の職種の動きにも目配りしますし、病院全体についても他のチームはどんなことをやっているかという視点で見えていますよね。感染対策は1つの部署が頑張っただけでは済むことではないの

終わりのない対策で院内における感染症を予防・低減

で、ICTは方針を定めた上で「こういう風にした方がいいですよ」と現場とすり合わせながらサジェストやマネジメントをする立場ですから。

植田 新しい知識や治療を提供することで患者さんの感染症を早く治し、お薬の副作用を少なくすることで、できるだけ安全に治療するという2つの視点が軸になっています。今ある知見を基に、体制づくりをしていきたいです。

石川 感染対策は実践されなければ意味がないため、実現可能な方法を提案することが大切です。理想と現実の折り合いをつけるためにも、現場とのコミュニケーションは欠かせません。

植田 ICTで得た情報を薬剤部に提供し、感染対策についての知識を共有しています。院内のスタッフすべてが最低限の知識を持ち、いざという時にいち早く同じ方向を向けるよう、理解のすそ野を広げていくことも自分たちの役割であると感じています。

中嶋 病院全体でどう対応するかという方針を立てることは一朝一夕ではできないことです。日頃から、終わりのない対策に取り組むことがいざという時の助けになるんですよね。感染は急速に広がっていくもの。ここ20年くらいの間でも新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、麻疹など、病院全体で力を合わせて対策を行う必要のある感染症が流行しています。今後、どんな感染症が広がるか分からないからこそ、チームが普段からうまく機能していることが大切です。

他職種連携で学んだこと

医師/中嶋一彦

薬剤師、看護師、検査技師、事務員など各職種のもつ強み、現場の調整力、専門的知識を学び、自らを向上させるようにしています。



薬剤師/植田貴史

医師の方から感染症の診断と早期治療の重要性、看護師の方から手指消毒の大切さ、検査技師の方から耐性菌やウイルスの知識を学びました。



看護師/一木薫

多角的な感染対策の実践にはチームで連携し、異なる視点や各々の専門知識を合わせることが重要だと学びました。



臨床検査技師/山田久美子

チームの方から、感染対策に関わる姿勢を学びました。今後も感染対策に貢献できるように迅速で正確な検査を心がけたいと思います。



栄養サポートチーム（NST）

Nutrition Support Team



（左から）医師/大仲慶、医師/田附裕子、
管理栄養士/塩貝貴久子、医師/倉賀野
隆裕

活動内容

- ① 管理栄養士が栄養スクリーニングをもとに評価を行い、栄養障害症例をピックアップし、介入の適応症例として主治医、リンカーズに提示の上、介入の有無を決定する。もしくは、主治医より直接依頼を受けて介入する。
- ② 栄養管理の現状評価と栄養管理計画立案のための回診を行う。（毎週金曜日病棟定期回診 ※依頼時は随時）
- ③ 病態に応じた適切な栄養管理法を助言する。
- ④ 栄養管理に関する教育啓発を目的とした勉強会や講演会を定期的に実施する。

構成メンバー



医師 倉賀野隆裕/大仲慶/寺嶋真理子/田附裕子/楠蔵人/中嶋一彦

歯科医師 野口一馬/大和皓介

看護師 桑田一郎/光森俊紀/前園賢治/清水直美/奥村みき/山中知絵里/新田文子/原田忍/岡山カナ子

薬剤師 津田薫/岡田健男/西川翠

臨床検査技師 雪松里佳



理学療法士 山内真哉

言語聴覚士 松藤隆広

管理栄養士 塩貝貴久子/前野愛/荒木一恵/堀江翔/折野芳香/西村涼/宮下千穂/小山静花/橋本佳歩

実験補助 長瀬和子

事務員 永井大樹

塩貝 栄養管理は患者さんの健康状態の回復において、とても重要な役割を担っています。私たち栄養士が栄養摂取量の把握を行い、必要に応じて点滴や栄養剤などの判断を先生たちに仰いでいます。

倉賀野 「栄養を適切に摂って回復につなげる」という観点で栄養管理はとても大切で、栄養指導で患者さん本人にもその理解を深めてもらうことが大切ですね。適切に栄養を摂ると体の回復も早くなるし、入院期間も短くなる。栄養サポートは患者さんの体の負担だけでなく、高齢化が進む中で医療経済的にも貢献できる部分が今後大きくなるだろうと感じています。

田附 たかが食事と思う人もいるかもしれませんが、「栄養療法」をちゃんと治療として受け止めてもらうことが必要ですね。栄養療法のプロが栄養サポートチーム（NST）ですし、多職種連携によって、より専門性の高い医療を届けられる＝チームである意味が生まれますね。

大仲 病態としては現行の栄養投与内容で問題のなかった患者さんに、リハビリの観点から「筋力が少し弱いのでタンパク質を増やしませんか」という提案があり、方針が変わったことがありました。自分にはない視点に、チームであることの心強さと可能性を感じました。

倉賀野 高齢化の進行や難病の若返りなど、

回復に欠かせない栄養療法。多角的な視点で治療をサポート

疾患の年齢幅も広がっていますし、病気ごとに必要な栄養情報が異なります。患者さんと関わる機会の多い栄養士さんの見解はとても大切です。

塩貝 入院中に身体的や心理的な理由で食事ができなくなってしまう方や、食べたくない拒否する方も。どうすればいいかを一緒に考えて、寄り添うことも栄養状態改善につながると考えます。以前よりも食べられた、体重が増えた等の実感をきっかけに、主科治療への意欲につながると嬉しいですね。

田附 特に、多様な患者さんを持つ総合病院でNSTが機能していることはとても大切ですね。

大仲 社会的ニーズの高まりに応じて、主科の先生や患者さんに治療の選択肢を増やす役割を担いつつ、チームみんなでさらにアップデートした医療を届けたいですね。



このチームとして活動する魅力

医師/楠蔵人

NSTカンファレンスを通じ院内の様々な部署の方と連携し、患者さんの栄養状態の改善に努めています。



歯科医師/大和皓介

様々な職種のスタッフが別の視点から1人の患者の栄養管理をできることが魅力です。別の職種の方からの意見で新たな学びがたくさんあります。



看護師長/新田文子

NSTで学んだ知識を病棟の看護師に教え、実際に活用して患者さんがよくなったらすごく嬉しいです。



薬剤師/西川翠

多職種がそれぞれの専門知識を活かし、各々の患者さんに最適な栄養サポートを行うことにやりがいを感じます。



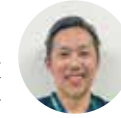
管理栄養士/西村涼

NSTカンファレンスでは栄養状態改善に向けた各職種のアプローチや観点を共有できることが魅力的です。



理学療法士/山内真哉

患者さんのリハビリをしていると、栄養状態の改善がADLの向上に繋がることを実感します。身体機能や骨格筋量の視点からサポートできればと思います。



言語聴覚士/松藤隆広

栄養状態が良くなることで飲み込みの機能も改善する患者さんも多いです。専門領域外の部分も気軽に質問しあえる雰囲気ของทีมです。



精神科リエゾンチーム (PLT)

Psychiatric Liaison Team



(左から) 作業療法士/岸雪枝、医師/吉村知穂、看護師/内園真佐司

| 活動内容 |

- ① 一般病棟の入院患者について、精神科専門医療が必要な患者を早期発見する。
- ② 精神症状の緩和や早期退院の推進を目的に、多職種による早期介入を行う。
- ③ 治療に関わる医療者に対し、精神科専門医療の見地からチームサポートを行うことで、患者とその家族への医療の質向上に貢献する。

| 構成メンバー |



医師 吉村知穂

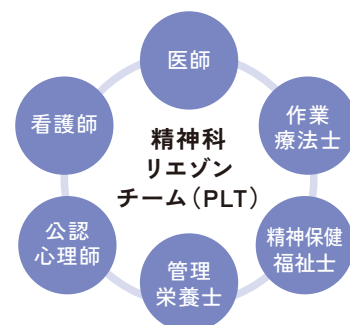
看護師 内園真佐司

作業療法士 岸雪枝

公認心理師 桐井隆志/吉田賀一

精神保健福祉士 上村容子

管理栄養士 堀江翔



吉村 精神科リエゾンチーム (PLT) は、体の不調で救急内科・外科に入院している患者さんでせん妄や抑うつなどの症状がある方がより良い心の状態で過ごせるよう、ケアの介入や環境調整、リハビリの進め方などの助言などを行うチームです。

岸 「リエゾン」はフランス語で「つながり、橋渡し」。体と心は深く結びついていますから、「気持ちのケア」は思っている以上に大切です。精神的苦痛を和らげて、主科の治療をしっかりと受けられるようにする「体と心の橋渡し」が私たちの役割です。

内園 専門の立場に立って、各自が見立てや診断や評価をしっかりとやっていくのは大前提で、その上で情報を共有していくのが大事ですよ。

吉村 看護師さんは患者さんとの関係性もできているから、情報をつないでもらうことで多角的に患者さんを知ることができます。主科の先生や看護師さんなどにPLTの見立てをきちんとお伝えして連携を図ることで、現場が動きやすくなりますね。

内園 コミュニケーションについても、「今の

患者さんが楽だと現場も楽。円滑なケアのサイクルを作っていきたい。

理解度なら2文節で伝えてください」と伝えるだけでも違いますよね。アドバイスをするとケアの形が変わるし、ケアが変わることが患者さんの安心につながることも。薬や環境調整だけがケアじゃないと思います。

吉村 情報を伝え合うことは、一緒に働く仲間のケアにもつながりますしね。何か理由があって落ち込んでしまった患者さんに「早く元気になってもらわないと」「励ましてあげないと」って現場が焦ってしまうこともあるけれど、「今はちゃんと受け止めてもらうことが必要ですよ」とか「落ち込みを受け入れながら、できる範囲でリハビリを進めていきましょう」などの声掛けも必要です。これまでの患者さんファーストはもちろん、患者さんと同じくらいスタッフの心身の健康が大切だという流れもあります。

岸 現実と教科書通りにはいかないですし、理想と現実のギャップに苦しんでいる医療従事者も多いです。そういう時にもPLTを役立ててほしいですね。うちのチームは柔軟な人が揃っていて、お互いをすごく信頼して動いているところがいいところ。対外的には「こうやってうまくやっているよ」、院内には「こんなことでお役に立てます」という発信を続けていきたいです。

吉村 看護師さんが新任のドクターにPLTを紹介してくれることも増えています。患者さんは入院生活が快適に、現場のスタッフは適切な精神的なケアを通して治療を円滑にできるように。PLTはあくまでも黒子。現場がうまく回っているという皆さんの実感を積み重ねて、より良い現場づくりに役立てればと思います。

チーム活動を行う上で大切にしていること

医師/吉村知穂

自らの専門性を大事にしつつ、かつ多職種の意見に耳を傾けること。その場限りの対応ではなく、長期的な視点を持つこと。



看護師/内園真佐司

患者さんや家族、スタッフがいかに穏やかに過ごせるか、どこかに負担の偏りがないかを考えるバランス感覚。



作業療法士/岸雪枝

お互いを尊重し、信頼し、つながり、感謝すること。専門なことだけではなく忌憚なく意見交換できること。



公認心理師/桐井隆志

患者さん支援のための情報共有。他職種の視点を大事にして、チームでどのような支援が出来るか話し合うこと。



CONTENTS

- 01 特集 良質で安全な医療を届けるために
兵庫医大のチーム医療
- 08 NEWS & TOPICS
 - ・「肥満症センター」を新たに開設
 - ・CT画像から 心大血管手術後の自立歩行獲得の遅延を予測-手術前の治療介入の適応判定にも役立つ可能性-
 - ・科学研究費助成事業(科研費)の申請支援セミナーを実施
 - ・研究医コースの医学部生が関連学会で活躍!世界でも果敢に挑戦し、さらなる高みへ
 - ・薬学研究科 大学院生が日本薬学会第144年会にて「学生優秀発表賞」を受賞
 - ・造血細胞移植コーディネーターが「HCT Contribution Award」を受賞
 - ・2024年度 事業計画タウンホールミーティングを開催
 - ・病院の運営方針説明会を実施
 - ・【5月12日は看護の日】各病棟の特色をパネル展示で紹介
 - ・来校型オープンキャンパスを開催
 - ・当院で2人目!事務職員が「医療クオリティマネジャー」に認定
 - ・科研費リーフレット「研究を始めるあなたへ〜科研費獲得までのRoad map〜」を発行
 - ・「ハーバード大学-兵庫医科大学連携セミナー:女性医師・研究者のキャリア開発と医療におけるAI」(全学FD・SD)開催
 - ・2024年度 幹部教員FDを開催
 - ・2024年度 ダイバーシティプロジェクト(DP)教員採択者決定
 - ・クラウドファンディング活用セミナーを開催
 - ・第17回日本緩和医療薬学会年会で2名の教員が優秀発表賞を受賞
 - ・ASHIYA健康通信講座 受講者への「体力測定会」を開催
 - ・新入生学外オリエンテーションを実施
 - ・進行・再発直腸癌に対する骨盤拡大手術に対するチーム医療の取り組み
- 15 OUR CREW
〜兵医メンバーのEMPOWER EPISODE〜
オフィス立ち並ぶ大阪・梅田の中心で
本院と同等の検査・医療を
健康医療学 臨床教授・兵庫医科大学病院 内視鏡センター長・
兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック 副院長
富田 寿彦
健康医療学 助教・兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック 医師
西井 謙夫
- 17 HYO-i LAB 研究紹介
臨床の現場で医療の質を向上させる
医療クオリティマネジメントに係る研究
兵庫医科大学 医学部 医療クオリティマネジメント学
准教授 高橋 敬子
- 19 4学部合同プログラム 2023年度ロンドン語学研修
- 法人からのお知らせ
- 21 財務の概要(2023年度決算について)
- 23 名誉教授称号授与
- 24 募金 近況報告/新病院棟建設だより
- 25 キャンパス通信 神戸キャンパス/篠山キャンパス
- 26 キャンパス通信 梅田キャンパス/
わたしをEMPOWERするもの



「肥満症センター」を新たに開設

2024年4月に肥満症センターを開設しました。

当センターでは、内科・外科の医師が肥満症治療専門の外來診療を行い、栄養士による食事指導、理学療法士による運動療法、精神科神経科医師による行動療法、看護師による生活指導と薬物投与手技の指導を実践します。

内科外來では肥満(体格指数: BMI 25以上)による健康障害を合併している肥満症の患者さんを広く受け入れ、個々の患者さんの状態に応じて、多職種連携のもと食事・運動・行動療法を行います。また、その後の状況を見ながら、薬物療法の検討、減量・代謝改善手術の推奨、術後の管理まで実践します。

外科外來は、体格指数35以上(条件によっては32以上)の高度肥満症の患者さんに対し腹腔鏡を用いた減量手術の実施を検討し、多職種連携により術前から周術期、術後まで安全で効果的な治療を推進します。

このように、複数の診療科及び多職種連携にて専門的な治療を提供し、肥満症に合併する多くの健康障害を予防、そして早期に発見・治療することで健康寿命の延伸と生活の質向上をめざします。



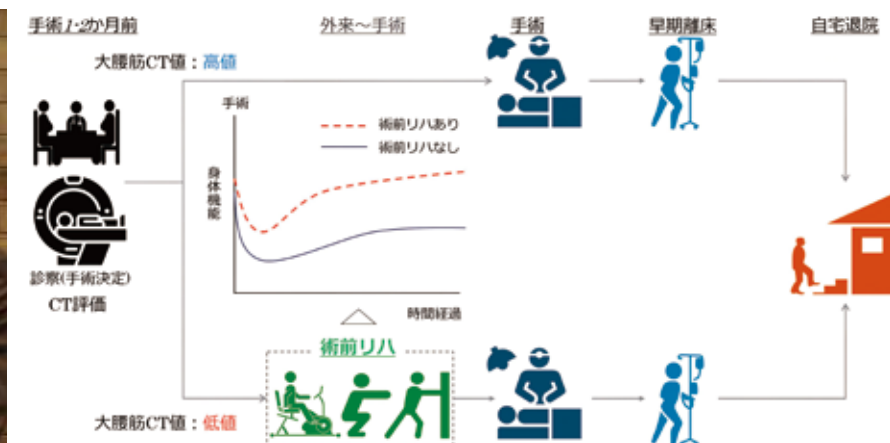
(小山 英則センター長より)

肥満症は体重増加(肥満)に糖尿病や高血圧など種々の健康障害が合併した、れっきとした病気です。逆に糖尿病などの管理において肥満は大変重要で、適切な減量により、血糖管理が著明に改善するケースが多々あります。肥満症センターでは、内科、外科、整形外科、看護部、栄養部、リハビリテーション部など多職種の叡智を結集して、内科的治療から外科的治療まで肥満症患者にとって最適な治療方針を提案します。地域の先生方と一緒に、永く肥満症診療を実践していきたいと思いますので、ご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



CT画像から 心大血管手術後の自立歩行獲得の遅延を予測-手術前の治療介入の適応判定にも役立つ可能性-

リハビリテーション科学研究科 病態運動学分野 大学院生 清水 和也さん、松沢 良太 講師、玉木 彰 教授らの研究グループは、心大血管手術前のルーチン検査である Computed Tomography(CT) 検査により評価した筋質が、術後の自立歩行獲得の遅延を予測するのに有用であることを明らかにしました。本研究論文は Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle(2023 JOURNAL IF: 9.4) に掲載されました。





科学研究費助成事業(科研費)の申請支援セミナーを実施

2024年7月10日、東北大学大学院 医工学研究科 阿部 高明 教授をお迎えし、科研費支援セミナーを実施しました。講演会では「研究費を獲得するために」をテーマに、科研費に限らず公的研究費を獲得するために実績を積み上げていくことの重要性や申請書を作成する上で意識すべきポイントについてご講演いただきました。



研究医コースの医学部生が関連学会で活躍！世界でも果敢に挑戦し、さらなる高みへ

本学の医学部 研究医コースに在籍する梶谷 直子さん、高坂 侑希さんは国内の研究者らと肩を並べ日本神経科学学会が主催する各種学会に挑戦し、2023年12月に行われた「第33回神経行動薬理若手研究者の集い」では二人が同点で最優秀発表賞を授与されるなど活躍しています。さらに海外では学生が参加すること自体が珍しいとされる米国最大級の神経科学学会大会「Society for Neuroscience2023」にて外国人研究者に囲まれる中、ポスター発表を行いました。近年、基礎医学研究医をめざす医学部生が著しく減少している中、今回の挑戦を経て「臨床研修を受けながら大学院で勉強し、基礎研究を続けたい」と今後の目標を語るお二人。さらなる活躍が期待されます。



薬学研究科 大学院生が日本薬学会第144年会にて「学生優秀発表賞」を受賞

2024年3月29～31日にパシフィコ横浜で開催された日本薬学会第144年会にて、大学院薬学研究科 3年生の吉年 勉さんが「学生優秀発表賞(口頭発表の部)」を受賞しました。吉年さんは市立ひらかた病院(大阪府枚方市)で薬剤師として勤務しながら、日々研究に励んでいます。

演題名:「各種アペイラビリティーを用いた生理学的薬物速度論(PBPK)モデル解析による薬物相互作用の定量的予測」



造血細胞移植コーディネーターが「HCT Contribution Award」を受賞

血液内科 造血細胞移植コーディネーターの川口 眞理子さんが「HCT Contribution Award」を受賞しました。本賞は、長年にわたり地域の造血細胞移植医療の発展に貢献し、地域からの信任を得た者に授与されます。また同学会において、現在は川口さんを含め全国で3人のみとなる「専門造血細胞移植コーディネーター(専門HCTC)」としても表彰されました。



2024年度 事業計画タウンホールミーティングを開催

2024年5月29日から6月7日にかけて西宮、神戸、篠山の3キャンパスで2024年度事業計画重点施策に関わるタウンホールミーティングを開催し、全4回で約200名が参加しました。経営層との直接交流を通じて教職員が事業計画への理解を深め、計画達成に取り組む風土醸成を図ることを目的としており、「医科大学」「大学病院」「ささやま医療センター」「法人」の各回において、日々現場で課題解決に取り組む教職員からの率直な意見や鋭い質問に対し、役員や部門責任者が自らの考えを直接伝えました。



病院の運営方針説明会を実施

2024年5月24日に病院の運営方針説明会を実施し、前年度の振り返りや2024年度の新たな病院運営方針、新病院建設の概要などについて、池内病院長より職員に向けて説明がありました。また病院運営に大きく貢献する部門や職員を表彰する「インセンティブ表彰」を併せて実施しました。





【5月12日は看護の日】 各病棟の特色をパネル展示で紹介

近代看護教育の母であるフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に因んで制定された「看護の日」。西宮本院に勤務する約1,000名の看護師たちが、勤務する病棟での日頃の活動や大切にしている”想い”を紹介する特性パネルを展示しました。



来校型オープンキャンパスを開催

神戸キャンパスにて、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部対象の来校型オープンキャンパスを6月8日(土)・9日(日)に開催しました。イベントでは学部ガイダンス、入試ガイダンス、学部体験企画、キャンパスツアーなどを実施し、2日間で約700名の方々に参加いただきました。参加した高校生からは「在学生の皆さんが明るく、大学の雰囲気が自分に合っていると感じた」「詳しく学部や入試について知ることができてよかった」などの感想が寄せられました。



当院で2人目！ 事務職員が「医療クオリティマネジャー」に認定

病院内の「業務改善活動の中心として活躍すること」を目的として、公益財団法人日本病院機能評価機構が開催する養成セミナーに本院 医療マネジメント課の絹川 武俊 課長補佐が参加し、当院で2人目となる「医療クオリティマネジャー」の認定を受けました。

病院はさまざまな職種の集合体で、「医療の質」を向上させるには病院の課題を発見し分析できるスキルや質の改善活動を推進するマネジメント能力が必要です。「医療クオリティマネジャー」がこの活動の中心となり、ご来院される患者さんが安心・安全に過ごすことができる病院運営をめざします。



科研費リーフレット「研究を始めるあなたへ ～科研費獲得までのRoad map～」を発行

ダイバーシティ推進室では、医師・研究者を中心とした「若手医師・研究者の研究力向上のためのワーキンググループ」を立ち上げ、活動をしています。ワーキンググループの活動の一環として、初めて科研費へ応募する方・まだ採択されていない方にも分かりやすいよう、学内の研究者に向けて、科研費申請までの手順や作成のポイントをすざろく形式にまとめたリーフレット「研究を始めるあなたへ～科研費獲得までのRoad map～」を作成しました。その他、学内の研究支援・相談の窓口一覧なども掲載しています。



「ハーバード大学-兵庫医科大学連携セミナー： 女性医師・研究者のキャリア開発と医療におけるAI」 (全学FD・SD)開催

2024年4月24日、ハーバード大学よりBatesご夫妻をお招きし、Carol Kurtz Bates 先生より「Career development of woman physicians and scientists in the U.S.」、David Westfall Bates 先生より「Recent Developments in AI in U.S. Medicine」についてご講演いただきました。講演は全編英語で行われ、参加した教職員は英語で積極的に質問し、大変貴重な機会となりました。



2024年度 幹部教員FDを開催

2024年5月31日から6月1日の2日間、ホテルクラシア大阪ベイにて2024年度幹部教員FDを開催しました。講師以上の専任教員12名が参加し、法人の現状や経営方針など幹部教員として知っておくべき事項や、医療者教育を取り巻く状況と本学の教育などについて網羅的に学ぶ機会となりました。また、今年度は外部講師をお招きした講演やグループワークも行い、各学部の相互理解と共通課題の認識を深めました。





2024年度 ダイバーシティプロジェクト(DP)教員採択者決定

女性管理職の少ない現状を打破し、積極的なキャリアアップのサポートをすることで、ロールモデルとなるような女性教員を育成することを目的として昨年度開始したDP教員制度ですが、今年度新たに講師コース1名、准教授コース1名の計2名が採択されました。2024年7月1日に鈴木学長及びダイバーシティ推進室長の高雄教授より採択証書が授与され、今後に向けて激励の言葉をいただきました。



クラウドファンディング活用セミナーを開催

5月22日に「クラウドファンディング活用セミナー」を開催しました。本学はREADYFOR株式会社と提携しクラウドファンディングを利用した研究や教育分野への寄付募集を行っています。当セミナーではREADYFOR株式会社 医療部門長である多田氏をモデレーターとし、昨年度「お年寄りの健康寿命を延ばしたい!」のテーマでクラウドファンディングに挑戦した総合診療内科学の新村主任教授から広報の進め方や苦労したことなど経験を踏まえた支援を得るためのポイントを講演いただきました。



第17回日本緩和医療薬学会年会で2名の教員が優秀発表賞を受賞

2024年5月24日～26日に開催された「第17回日本緩和医療薬学会年会」において、本学 薬学部の教員2名が優秀発表賞を受賞しました。

薬学部 医療薬学科 薬物中毒治療学研究室 北中 純一 准教授
ポスター発表：選択的 GSK3 阻害薬による実験的モルヒネ退薬症状の緩和

薬学部 臨床薬学分野 宮本 朋佳 助教
一般演題演題：オピオイド使用患者におけるせん妄の発症リスクに便秘や下剤の併用が与える影響



ASHIYA健康通信講座 受講者への「体力測定会」を開催

リハビリテーション学部 理学療法学科の永井 宏達 准教授と、甲南女子大学 看護リハビリテーション理学療法学科、芦屋市社会福祉協議会は協同で“高齢者のヘルスリテラシーの向上と介護予防”を目的とした「ASHIYA 健康通信講座」を2024年4月に開設しました。また、この講座の受講者である芦屋市、神戸市在住の平均年齢78歳の男女10名に対し「体力測定会」を開催し、歩き方や体操の仕方をレクチャーしました。両大学からは学生もサポーターとして参加し、受講者との交流をはかりました。中にはご自宅に引きこもりがちな方も参加しており、介護予防の観点からも新たな受け皿となるべく将来的には全国への展開を目指します。



新入生学外オリエンテーションを実施

2024年4月12日～4月13日の2日間、ユニトピアささやまにて「新入生学外オリエンテーション」を合宿形式で実施しました。1日目は「私の医師としての夢」をテーマに全員がポスター発表を行い、プレゼンテーション能力の向上を図るとともに、自分の医師としての将来像を同級生と共有しました。2日目にはバーベキューもあり、お互いの理解と親睦を深める良い機会となりました。



進行・再発直腸癌に対する骨盤拡大手術に対するチーム医療の取り組み

進行・再発した直腸癌患者の手術は、骨盤内で直腸に隣接した臓器(膀胱・子宮・骨など)と一緒に切除する必要があり、QOLが著しく低下します。そこで多職種で構成された「骨盤拡大手術チーム」が対応しています。

下部消化管外科・泌尿器科・形成外科・麻酔科・ペインクリニック部・リハビリテーション科に所属する医師及び病棟看護師、手術室専従看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、理学療法士、管理栄養士などで構成され、それぞれの職種が専門性を活かして治療に携わります。術前に患者の心身状態や問題点を相談し、術後合併症の早期発見・早期治療をチーム全体で行うことで長期にわたる入院期間が短縮し、また患者ならびに家族の満足度も高く、その有用性が期待されています。

